



Kumamoto University Library Bulletin, No.21, October. 1998

● 授業・こころ・出会い

永青文庫蔵雑記類より (二)

● 細川宗孝の死 (2)

● 他大学と目録システム〔雑誌コース〕と
ILLシステム地域講習会を共同開催

● オンラインILL申込を開始



御奉行所図 (部分)
永青文庫 (第15回特殊資料展 展示予定)

授業・こころ・出会い

中本環

小・中・高校で授業を行なってきた。頼まれることもあれば、こちらから研究のためにとやらせてもらうこともある。年間平均5回として150回くらい、ほぼ九州全域になる。

平成7年(1995)1月。牛深中学の1年生相手に詩の授業をした。テキストは、熊本県立黒石原養護学校の第Ⅱ部(筋ジストロフィー)の児童生徒の詩4編であった。

その内の1編に「母ちゃんへ」という西祐士君の詩があった。中学2年生の時に作ったということだった。両親と離れ病棟が住居(下宿)となっている。

母ちゃんへ
小さい時、悪さをすると
しかられた
友達にいじめられた時
一人で泣いた

病棟から電話すると
母ちゃんの声はかすれていた
「仕事はどぎやんね」
「うまくいきよる」
母ちゃんの声

僕と姉ちゃんたちのために
材木置場に出ていく母ちゃん
材木は重たかる
まわりの人とは仲よくしよるとね
僕もなおつたら手伝ってやるけんね

電話からきこえる母ちゃんの声
僕も頑張りよるけん
母ちゃんも、頑張らなりたい
きつと僕も手伝ってやるけんね

4編のうち上の詩が一番好きと答えた生徒の中から、ある女の子に、では読んで下さいと指名した。

立って読み始めた。
場所は講堂で、生徒たちの机のまわりには地区の先

生たちが50人くらい見ている。

読み始めてすぐ、彼女は泣き出した。声を押しこらしても出てくるという感じで泣いている。側に近寄って小声で励まし、泣き止むのを待った。やがて無事きちんとした声で読み終えた。

授業終了後、理由を聞いた。気持ちがわかりすぎるから、というようなことであった。

担当の先生に尋ねたら、成績はまあまあということであったが、要するにこの子は内容をとても理解した、ということなのだ。内容とほんとに出会ったのだ、と言いかえてもよい。

福岡県築上郡の築城(ついき)中学の3年生のクラスで古典の授業をした。平成元年(1989)11月。枕草子の、春はあけぼの。ようよう白くなりゆく山ぎわ少し明りて、紫だちたる雲の細くなびきたる…、夏は夜…。と続く段がテキストである。

39名全員に、自分の好きな季節について200字の文章を書かせた。私の密かな目的は生徒一人ひとりの“枕草子”を書いてもらうことである。

さて、その中の一人の女の子の文章。

夏は、雲ひとつない青空がひろがっている。その空の下で、お気に入りの自転車にのって走っていくと、自分たちの世界が目の前に見えてくる。風になれる。夏は、わたしを変えてくれる。みずみずしさと暑さが入りまじっているその中で、子供たちの笑い声が聞こえてくる。大人たちのはずんだ話し声が聞こえてくる。夏は、今も(私を)変えてくれる。だから、夏は、好きだ。

上の文章を書いた生徒は、いわゆるツッパリのようなスタイルの女の子だった。

全員が、各自自分の文章を読み上げ、聞き合って、この時の授業は終わった。

終わった時、ワァーというどよめきのようなふんい気があった。お互いの内面が見えて、それで互いに顔を見合わせてほほえんでいる、そういう充実した図柄であった。

昭和60年(1985)7月、八代郡泉村の第七小学校で作文の授業をした。児童は全校生7名。3年2名、4年

1名、5年4名の計7名で複々式授業である。1週間泊まり込みだった。

国語の作文の時間だけ私が受け持つ。従って、1日に1回授業すると、あとは、当校の先生の授業を見学する。学校が終わると、担当の先生(平山義嗣。現、竜北西部小)や校長、地元の人と、教員宿舎で酒をまじえて歓談して時間をすごした。何しろ僻地3級の山の中

の学校だから、これが何よりの馳走なのだ。

7人の児童の中に自閉症の男の子が1人いた。この子が卒業するまで5年間平山先生はここに勤めた。以来今も第七小学校の運動会には平山先生とそして私のゼミ生と私と妻と、応援にかけつける。今年は9月27日総勢14名で、児童5名の第七小学校に行く。

(なかもと たまき 教育学部教授 国文学)

永青文庫蔵雑記類より(二)

細川宗孝の死(2)

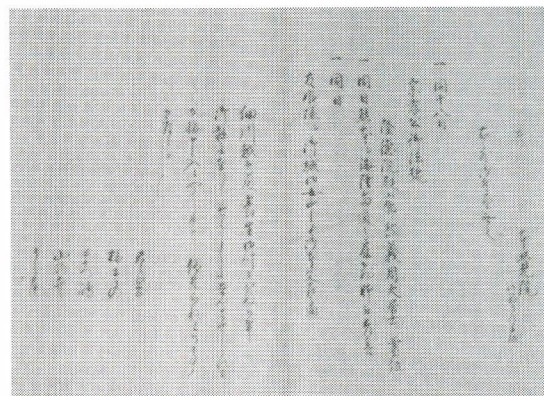
西田耕三

『延享秘録』は、延享4年8月15日から9月22日まで、日をおって宗孝不慮の災難の顛末を記している。日をおってはいるが、直接の記録ではない。事件後、日を経てまとめたものである。ただ、あきらかに細川家側の視点からの記録である。いくつかの項目に分けて摘記しておこう。

〔熊本への連絡〕宗孝の災難は8月15日午前9時頃。その日の午後6時頃に、使番瀬戸角右衛門が早打ちで江戸を立ち、さらに夜になって早打の雇飛脚を差立てている。この雇飛脚は11日後の8月26日午前10時頃熊本へ着く。その夜のうちに目付の生駒十右衛門が熊本を立ち、9月14日江戸着。また、8月27日に熊本を立った用人奥村安左衛門は9月17日に江戸へ着く。往復に1ヶ月を要している。宗孝は8月16日午前4時すぎになくなる。その知らせのために、翌17日、鉄砲頭村井源兵衛が早打ちで立つ。さらに18日に雇飛脚を差立てる。逝去の知らせを受けた熊本から、使番天野善左兵衛が29日に立って、9月21日に江戸着。なお、熊本では9月20日、21日に、宗孝の35日の法事を行なっている。

〔跡式〕宗孝遭難直後に、將軍家から跡式のことは心配なきようにという確認は得ていたが、宗孝死後、重臣たちは心配し、方々に確認を求めている。宗孝の養子となっていた弟の主馬(後の細川重賢)が、支障なく宗孝の跡をつぎ、8月20日から「殿様」と呼ばれる(このことは江戸藩邸の「日記」にもみえる)。

〔友姫〕宗孝の妻友姫へ、8月18日と19日、お城女中および西丸女中たちからそれぞれの主人の気持を伝えるおくやみの手紙が来る。「越中守殿御事、養生御叶なく御死去のよし御聴に達し、御せうしに思召させられ



『延享秘録』、延享4年8月18日の条

候。友姫様御障りも御座なく候やと、御尋あそばされ候御事御座候、かしく」(西丸女中)というもの。友姫は、8月23日から静證院と呼ばれることになる。静證院は紀伊大納言の娘で、重賢と同年。重賢は兄嫁で養母であった静證院に終生孝養をつくす。

〔修理の処罰〕板倉修理の処罰は、宗孝死去の日の夜に行なわれることになっていたが、細川家からの宗孝死去の報告が遅れたこと、ちょうど京都から公家が参向していたこともあって延び、さらに21日は將軍家の差支えのある日に当たり、22日に行なわれることになった。しかし、その日になっても何の沙汰もないので問い合わせたところ、江戸城奥向きの能舞台の新築に伴う能興行のために延引、ということがわかる。これらの情報を細川家に提供したのは、若年寄本多伊予守の奥医師で、細川家へも心安く出入していた武田叔安老である。細川家の重臣たちが、一日も早く修理を処罰してもらい、藩士の不満を静めようとしていることが、これらの記述から伺われる。修理の切腹は23日。

〔お城坊主〕事件直後から、お城坊主の詮議が行なわ

れている。お城坊主は、将軍家と諸大名の間、大名間のスムーズな関係のために不可欠の存在だったが、それゆえに表向きの役割を逸脱することを警戒された存在でもあった。この事件で処分を受けたのは3人。最も重く、扶持を召し放たれた星野久悦の場合はこうである。宗孝が小用所の前にいるところへ久悦が通りかかった。宗孝は手拭を久悦に預け、小用所へ入った。久悦が待っていると、小用所の奥の方で下駄の音がして、騒がしくなった。久悦が二本戸の間から覗きみると、暗いので相手は誰とも見分けられなかったが、刃物が光り、切り合いの様子であった。久悦は「前後を忘却」して蘇鉄の間の方へ立退いた。この久悦の行為が「不行届仕方不埒」であったのである。久悦はどうすればよかったのか。「御目付又は御徒目付江成共早速可申達」であったのである。後の2人は「叱り置」かれた。ともに「四品以上揃の点懸役」であったが、山田清喜は、自分の持場をあげ騒動の所へ行ったこと、吉田長佐は、逆に、手負いの者を見かけながら目付又は徒目付へ連絡しなかったことが、咎められた。長佐

の場合、役儀専一と考えたと判断されたから、この程度の処分ですんだのである。公の処分はなかったが、宇田川玄覚のような場合もある。玄覚は熊本藩出入りのお城坊主だったが、8月15日、事情があつて登城が遅れた。辛うじて事件後の様々の用事には間に合ったが、その不調法を恥じて、今後細川家への出入りはやめたい、と藩の重臣に願書を提出している(実際にどうなったかは記されていない)。

〔加藤卯左衛門〕加藤卯左衛門は板倉修理の用人で、心気よろしからぬ修理を江戸城へ出仕させた責任者である。すなわち、事件後、修理の屋敷へ赴いた花房近江守と堀田兵部は、このところ修理は不快ゆえ、登城させないように前々から加藤に申し付けておいたのに、差し留めなかった、と言って、加藤の不届きを咎めている。8月21日に、加藤は入牢、忤喜内は座敷牢という処分。加藤の立場は後に実録の世界で肥大していくが、この段階でのこの情報がどこからもたらされたものか、私には判断できない。

(にしだ こうぞう 文学部教授 国文学)

他大学と目録システム〔雑誌コース〕とILLシステム地域講習会を共同開催

附属図書館では、6月29日から7月3日まで、目録システム講習会〔雑誌コース〕とILLシステム講習会を開催しました。この講習会は、全国約500大学等で目録業務の効率的処理を行うために利用している総合目録システムNACSIS-CATと、他大学等から複写物等を迅速に取り寄せ、研究者等に提供するため利用しているNACSIS-ILL(Inter-Library Loan:図書館間相互貸借)システムの操作法を習熟することを目的に実施しているもので、学術情報センター以外に全国の大学等で地域講習会として開催されているものです。

本学では平成3年度(ILLシステム講習会については平成7年度)から毎年開催していますが、目録システム講習会が図書コースと雑誌コースに分かれて以降、今回初めて雑誌コースを開催しました。特に地域講習会としては初めての試みとして、目録システム講習会〔雑誌コース〕は九州地区大学図書館(九州大学附属図書館、熊本大学附属図書館、鹿児島大学附属図書館)および学術情報センターとの共同開催、ILLシステム講習会は熊本県内大学図書館(熊本大学附属図書館、九州ルーテル学院大学図書館)との共同開催という形態をとりました。受講生は本学職員以外に県下をはじめ、福岡、佐賀、長崎、大分、鹿児島、宮崎の大学図書館

等から20名の受講がありました。

また、この講習会は、単にシステムの操作方法を習得するだけでなく、全国の大学等で共同分担入力しながらデータベースを構築することの意義や、学内の教官・学生から全国あるいは海外の図書館利用者に対して迅速に情報提供するための図書館間協力事業の重要性を再認識する機会にもなっています。(電子情報係)



図書館諸統計（平成9年度）

I 受入統計

① 年間受入

		中央図書館			医学部分館			薬学部分館			計
		購 入	寄贈・その他	小 計	購 入	寄贈・その他	小 計	購 入	寄贈・その他	小 計	
図 書	和漢書	8,903	1,267	10,170	246	573	819	87	32	119	11,108
	洋書	3,534	1,828	5,362	168	1,727	1,895	59	449	508	7,765
	計	12,437	3,095	15,532	414	2,300	2,714	146	481	627	18,873
雑 誌	日本語	1,786	2,872	4,658	232	712	944	47	20	67	5,669
	外国語	1,517	335	1,852	568	149	717	88	148	236	2,805
	計	3,303	3,207	6,510	800	861	1,661	135	168	303	8,474
新 聞	日本語	10	16	26	4	0	4	6	3	9	39
	外国語	3	5	8	1	0	1	0	0	0	9
	計	13	21	34	5	0	5	6	3	9	48

② 蔵 書

		中央図書館	医学部分館	薬学部分館	計
図 書	和漢書	673,648	69,445	14,956	758,049
	洋書	322,765	98,732	18,585	440,082
	計	996,413	168,177	33,541	1,198,131
雑 誌	日本語	9,713	1,976	352	12,041
	外国語	3,440	2,053	390	5,883
	計	13,153	4,029	742	17,924

II 利用統計

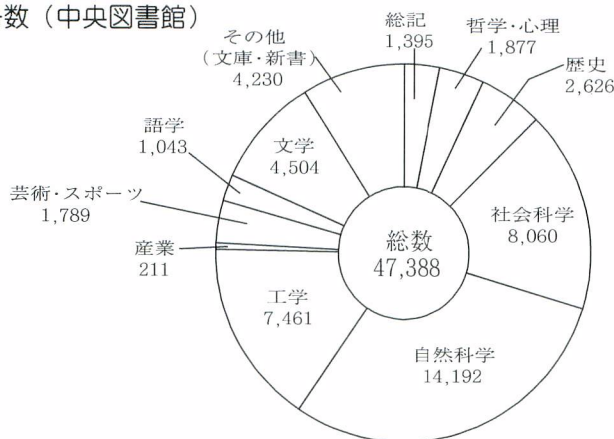
① 開館日数・入館者数・貸出冊数

	中央図書館	医学部分館	薬学部分館	計
開 館 日 数	319	334	329	982
時間外開館日数(内数)	298	276	272	846
入 館 者 数	387,801	141,892	93,384	623,077
時間外入館者数(内数)	87,462	43,649	28,224	159,335
貸 出 冊 数	47,388	7,311	1,047	55,746

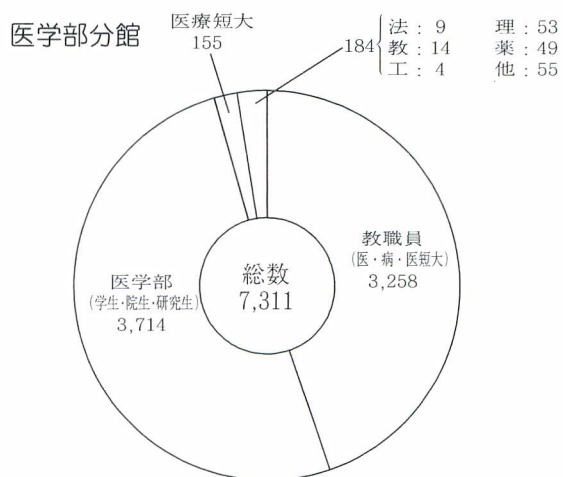
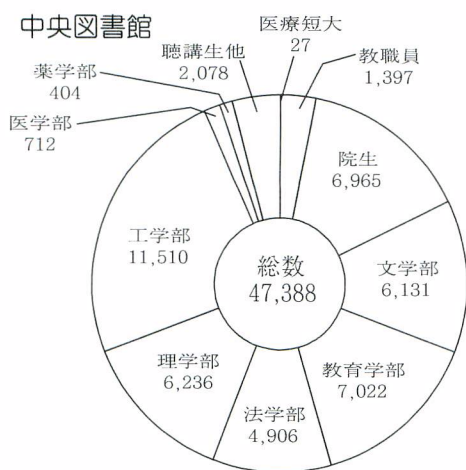
② 身分別貸出冊数

	中央図書館	医学部分館	薬学部分館	計
学 部 生	36,921	2,383	544	39,848
院 生	6,965	1,321	353	8,639
そ の 他 学 生	2,105	327	22	2,454
教 職 員	1,397	3,280	128	4,805
計	47,388	7,311	1,047	55,746

③ 分野別貸出冊数（中央図書館）



④ 学部別貸出冊数（中央図書館、医学部分館）



⑤ 文献複写

	中央図書館	医学部分館	薬学部分館	計
学 外 依 頼	3,421	3,635	765	7,821
学 外 受 付	1,348	2,708	1,170	5,226
学 内 処 理	439	203	173	815

⑥ 相互貸借

	中央図書館	医学部分館	薬学部分館	計
依 頼	462	5	2	469
受 付	327	2	0	329

⑦ 特殊文庫（中央図書館）

	松井文庫	北岡文庫	その他
利 用 者 数	26	189	8
利 用 冊 数	392	8,246	27

⑧ 視聴覚資料・CD-ROM (中央図書館)

	視聴覚資料 ※1	CD-ROM ※2
利 用 件 数	2,117	80

※1 ビデオ、LD

※2 スタンドアロンのみ。

Ⅲ 年次推移

① 開館日数・入館者数・貸出冊数

	中央図書館			医学部分館			薬学部分館		
	開館日数	入館者数	貸出冊数※1	開館日数	入館者数	貸出冊数※2	開館日数	入館者数	貸出冊数※1
平成5年度	265	365,052	57,669	276	92,318	8,943	277	90,835	976
平成6年度	265	381,238	56,591	279	105,421	9,516	276	74,807	1,078
平成7年度	267	405,769	58,851	279	118,882	9,278	276	86,945	1,473
平成8年度	315	455,555	55,251	333	140,965	8,410	327	89,071	1,560
平成9年度	319	387,801	47,388	334	141,892	7,311	329	93,384	1,047

※1 図書のみ ※2 図書・雑誌

② 文献複写

	中央図書館			医学部分館			薬学部分館		
	学外依頼	学外受付	学内処理	学外依頼	学外受付	学内処理	学外依頼	学外受付	学内処理
平成5年度	2,996	2,340	4,685	1,724	5,109	263	420	1,025	345
平成6年度	3,473	1,597	4,087	2,137	5,117	277	638	1,152	257
平成7年度	2,979	1,798	4,121	2,557	5,168	245	808	1,312	484
平成8年度	2,924	1,656	3,744	2,677	5,351	250	1,056	1,014	399
平成9年度	3,421	1,348	439	3,635	2,708	203	765	1,170	173

③ 相互貸借

	中央図書館		医学部分館		薬学部分館	
	依 頼	受 付	依 頼	受 付	依 頼	受 付
平成5年度	359	395	5	5	3	4
平成6年度	379	399	8	12	1	1
平成7年度	448	485	5	4	1	0
平成8年度	420	246	3	0	4	4
平成9年度	462	327	5	2	2	0

オンライン ILL 申込を開始

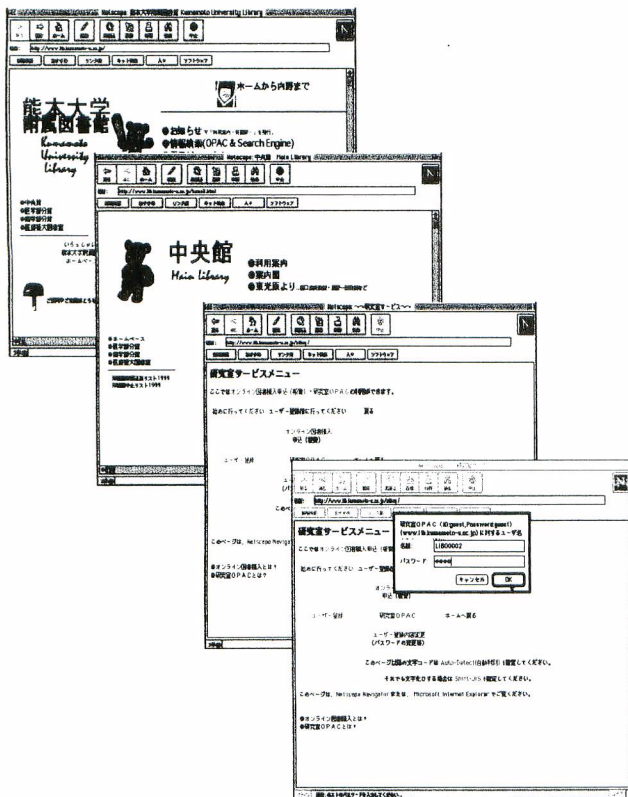
学内に所蔵していない資料を、他の大学図書館等からコピーや資料現物で取り寄せる ILL (Inter-Library Loan: 図書館間相互貸借) の申込がオンラインでできるようになりました。このオンライン申込を利用するためには事前にユーザ登録が必要です。ユーザ登録はオンラインで各自行うことができますが、所属する図書館のカウンターで所定の用紙に必要な事項を記入することでも可能です。操作方法の概要は以下の通りです。

1. ホームページへの接続

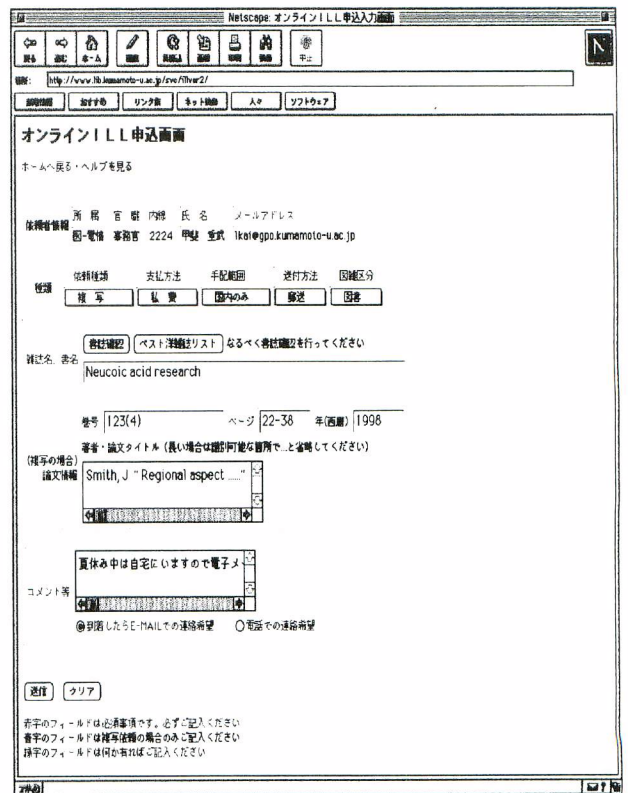
- ① 研究室等のパソコン等から、附属図書館のホームページ (<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/>) にアクセスします。
- ② ご自分の所属する館 (中央、医学、薬学、医短) のホームページを選択します。
- ③ 各館のホームページから「研究室サービス」のメニューを選択します。
- ④ サブメニュー「オンライン ILL 申込」を選択します。(「ユーザ登録」のサブメニューもこの画面で選択できます。)
- ⑤ ユーザ認証画面で予め登録しているユーザ名、パスワードを入力します。

2. ILL 申込のデータ入力

- 申込画面が表示されますので、必要に応じて「ヘルプ」を参考にしながら、申込データを作成して下さい。
- ⑥ 申込者事項の確認：氏名・所属・メールアドレス等はすでにユーザ登録した内容が表示されますので確認します。
 - ⑦ 各種条件指定：サービス種別 (複写・貸借)、支払方法 (校費・私費)、依頼先の範囲 (国内まで・海外まで)、送付方法といった条件を指定します。
 - ⑧ 雑誌名・書名の入力：省略略名等ではなく、正確な雑誌名・図書名を入力します。



接続までの画面遷移



ILL 申込データ入力画面

略誌名等で申し込んだ場合、所蔵館の確認が困難となり資料の入手時間が遅れることも予想されます。なるべく申込画面からリンクしている以下のツールで誌名等を確認・選択して下さい。

(a)全国総合目録

600を超える大学図書館等で所蔵する約3,500万冊の図書、約22万タイトルの雑誌の総合目録です。「ヘルプ」を参考にしながら雑誌名や書名の単語等を指定して検索します。タイトルや所蔵館表示等から目的の資料であることを確認したら「OK」とします。

なお、この全国総合目録は平日の午後など利用が集中する時には回答時間が遅くなることもありますのでご注意ください。

(b)ベストユースリストで選択

全国的にILL利用の多い洋雑誌(1,000タイトル)については、別途アルファベット順の「ベストユースリスト」を用意しています。速く簡便に選択することができます。

⑨ 論文事項の入力：複写の場合、依頼する文献に固有の情報を入力します。巻号、ページ、年、論文著者とタイトルを入力します。

⑩ コメント等の入力：その他、必要に応じて注意事項や連絡事項を入力します。

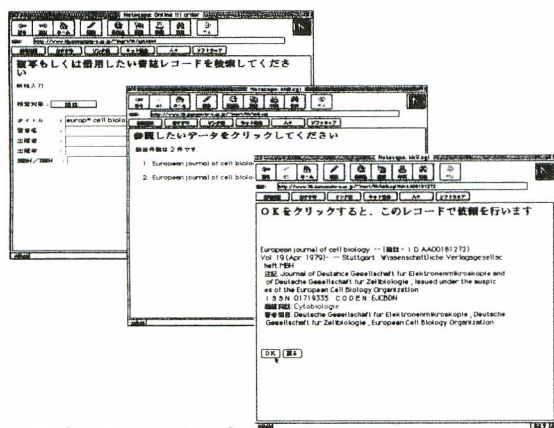
3. 送信と確認

⑪ 以上、申込画面で必要事項を入力した後、「送信」をクリックすると申込データの確認画面が表示されます。問題がなければ「OK」を指定します。

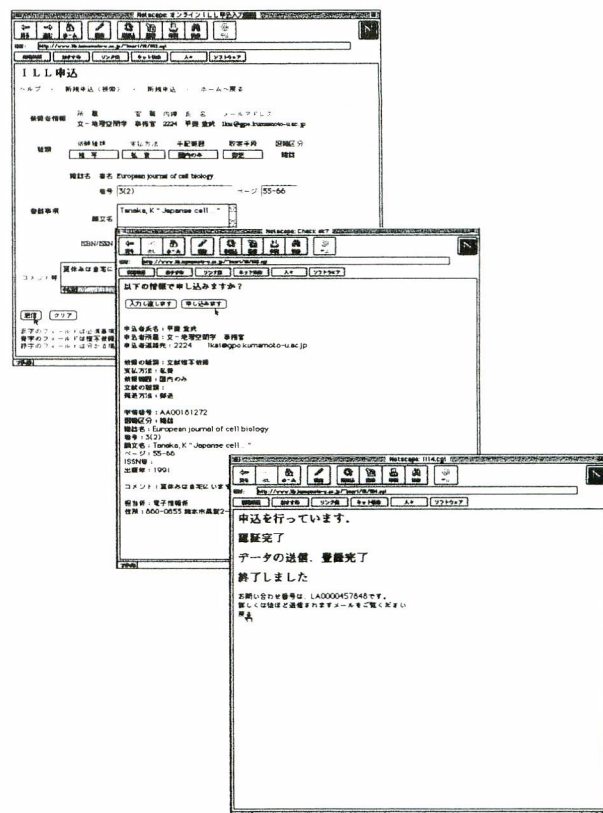
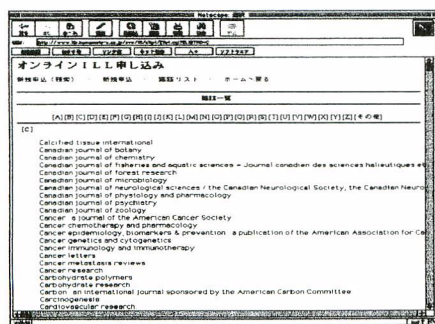
⑫ 数秒後に、システムがILL申込データを受け受けた旨のメッセージを表示します。これで申込は終了です。なお、別途電子メールでも内容確認のメールが送信されます。

運用上の注意やユーザ登録等について詳しいことは、各館担当係(中央:2233、医学・医短:5035、薬学:4661)または電子情報係(2224)まで、お電話、電子メール(lwww@lib.kumamoto-u.ac.jp)でお問い合わせ下さい。(電子情報係)

(a)全国総合目録



(b)ベストユースリスト



雑誌データ確認のためのツール

データ送信と確認の画面遷移

本学教官寄贈著書紹介

内野 明德 教授 (理・環境理学)

熊本県の保護上重要な野生動植物

— レッドデータブック くまもと —

熊本県希少野生動植物検討委員会

(代表 内野 明德)

1998. 3

お知らせ

『第15回熊本大学附属図書館特殊資料展並びに講演会』を、下記の要領で開催します。

記

テーマ：『細川家資料にみる近代法への歩み』

期間：平成10年11月1日(日)～3日(火)

時間：10:00～16:00

会場：附属図書館自由閲覧室 (B1F)

出品資料：「永青文庫」所蔵より

「御刑法草書」「御刑法定式」「死刑
一卷帳書抜」「肥後物語」「拷問
図」「姦犯」「追放帳」ほか

講演会：演題「熊本藩のつみとばつ」

講師 熊本大学法学部教授 山中 至氏

日時 平成10年11月1日(日) 13:30～15:00

会場 附属図書館会議室 (2F)

日誌(平成10.5.1～8.31)

- 5.19 図書館運営委員会
 - ◇ 古典籍研修会
- 5.21 日本薬学図書館協会総会 (自治医科大学)
- 5.26 国立大学附属図書館部課長会議
- 5.29 日本薬学図書館協議会 (於東京)
- 6. 2 古典籍研修会
- 6.16 古典籍研修会
- 6.24 第45回国立大学図書館協議会総会 (於鹿児島)～25
- 6.29 I L Lシステム地域講習会～30
- 7. 1 目録地域講習会 (雑誌コース)～ 3
- 7. 6 運営委員会 (薬学部分館)
- 7. 7 古典籍研修会
- 7.11 館内改装・書架増設にともなう臨時休館～8.2 (医分館)
- 7.16 九州地区医学図書館セミナー (宮崎医科大学)～17
- 7.21 臨時休館 (中央館)～24
- 7.21 文学部古文書研修～27
- 7.27 古文書研修～31
- 8.25 熊本県図書館協議会実務者研修会 (九州東海大学)
- 8.25 図書館等職員著作権実務講習会 (京都大学)～28
- 8.27 第46回九州地区医学図書館協議会総会 (大分医科大学)

編集後記： 夏も終わり、しのぎやすい季節となりましたが、みなさまいかがお過ごしでしょうか。

さて、『お知らせ』でもご案内しましたが、今年も学園祭(熊粹祭)の期間にあわせて、特殊資料展を開催いたします。また、初日の午後には、本学法学部教授の山中氏の講演会も行われます。

日頃、古文書には縁のない方でも、この機会にぜひご来館ください。

みなさまのお越しをお待ちしています。

熊本大学附属図書館報「東光原」(とうこうげん)*

第21号(Vol. 7 No.3)平成10年10月発行

発行所 熊本大学附属図書館〒860-8555 熊本市黒髪2-40-1

TEL 096(342)2273 FAX 096(345)9087

HP <http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp>

編集 濱崎修一・成田和則・中尾康朗

野元剛二・伊波ひとみ

※ 現在の中央館の敷地一帯が、旧制第五高等学校時代東光原と称する運動場であったことに由来する。